

当院における放射線治療件数のうち、IMRT (強度変調放射線治療) の占拠率

●説明

最近注目されている強度変調放射線治療IMRTですが、患者さんをより低侵襲に治す、より高いQOLを維持しながら治すということを目的として行われています。ただし、多くの施設では人員不足、設備不足などを理由に中々件数を伸ばせていません。そこで神戸大学放射線治療部門では、よりよい治療を患者に届けるをモットーに急激に従来の放射線治療をIMRTに移行してきました。その増加率および占拠率を示します。

●計算式

$$QI = \frac{\text{年間の放射線治療件数の総数}}{\text{年間のIMRTを用いた放射線治療の件数}} \times 100$$

●目標

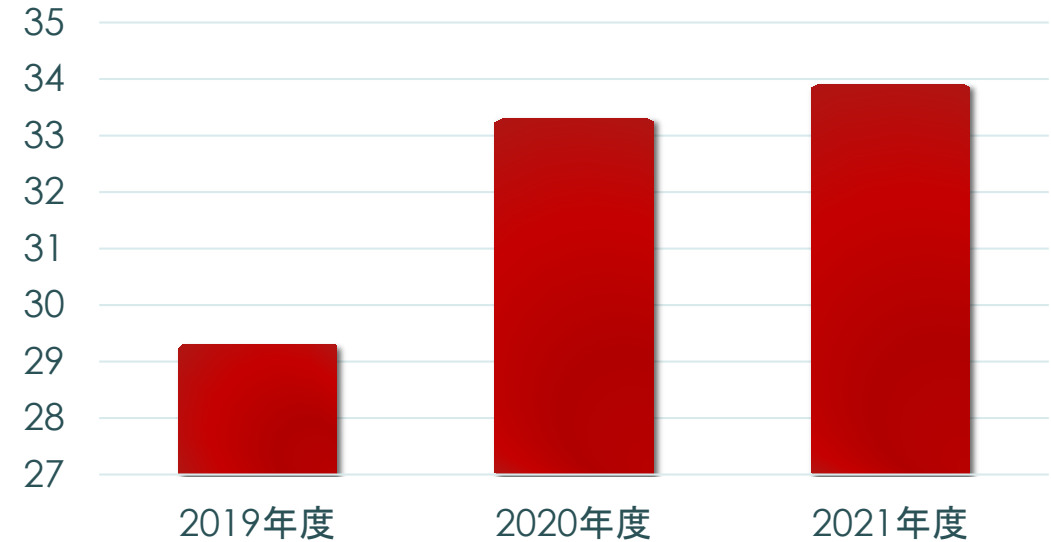
年間の放射線治療の総数のうち35%がIMRTならばかなりの件数と考えられます。

●計画

2014年にIMRTが神戸大学で開始され、2020年までに30%を超え、2023年までに35%が目標となります。

●実績

(%)



●評価

2014年には総数1151件、IMRT5件で占拠率0.4%でした。しかし、2017年に20%を超え、2020年は総件数1098件、IMRTは366件で占拠率が33.3%と短期的な目標に到達いたしました。IMRTは高精度な治療であるが故に治療機を占有する時間が通常の治療より長く、IMRTの占拠割合30%⇒35%は今までの20%⇒30%に向上させるよりはるかに難しい。2台の治療機の診療時間内の稼働だけではほぼ無理で、3台目のリニアックが望ましい状態です。